

**倶楽部ジネコ****「不妊に悩む」女性 412 人、不妊治療施設 104 施設に意識調査を実施****～ 経済的負担・精神的不安を軽減する対策、公平で的確な情報提供が課題 ～**

株式会社バズラボ(東京都中央区、代表取締役:杉山隆太)が運営する倶楽部ジネコは、全国の不妊治療中の女性(又は経験者)412名、不妊治療施設104施設を対象に不妊治療の阻害要因について意識調査を行いました。

**【調査結果】**

調査の結果、不妊治療中の女性にとって悩みや障害となっているのは「経済的負担」が最も多く、次に「精神的不安」であることが分かりました。同様の調査を不妊治療施設に対して行ったところ、上位は全く同じ結果となり、経済的負担・精神的不安を軽減する対策が必要であることが分かりました。また、不妊は女性一人の問題でないにも係わらず、女性自身の問題として抱え込む傾向にあり、男性への協力の呼びかけが課題であることが分かりました。

**1位 「経済的負担」**

不妊治療中の女性の83.3%、不妊治療施設の79.8%が「経済的負担」と回答。経済的負担を軽減する対策案を自由回答で尋ねたところ、助成金のより一層の拡充、保険適用拡大の要望が多く挙がりました。

**2位 「精神的不安」**

不妊治療中の女性の57.1%、不妊治療施設の48%が「精神的不安」と回答。「会社や友人の理解が乏しく配慮がないことが精神的に傷ついた」と回答された方もおり、社会の不妊症に対する知識の浸透、カウンセリングの設置などを望む声がありました。

**3位 「年齢」**

不妊治療中の女性のうち57.1%、不妊治療施設の48.1%が「年齢」と回答。不妊症について正しい知識を学ぶ早期教育が必要であることが分かりました。

**～ 不妊治療施設と不妊治療中の女性との比較結果 ～****不妊治療の問題を一人で抱え込む傾向。**

不妊治療施設の26%が「夫の協力不足」を感じているのに対し、不妊治療中の女性は14.3%と見解の差が大きいことが分かりました。これは、不妊治療を女性自身の問題として抱え込んでいることが伺え、夫への協力の呼びかけが課題であることが分かります。

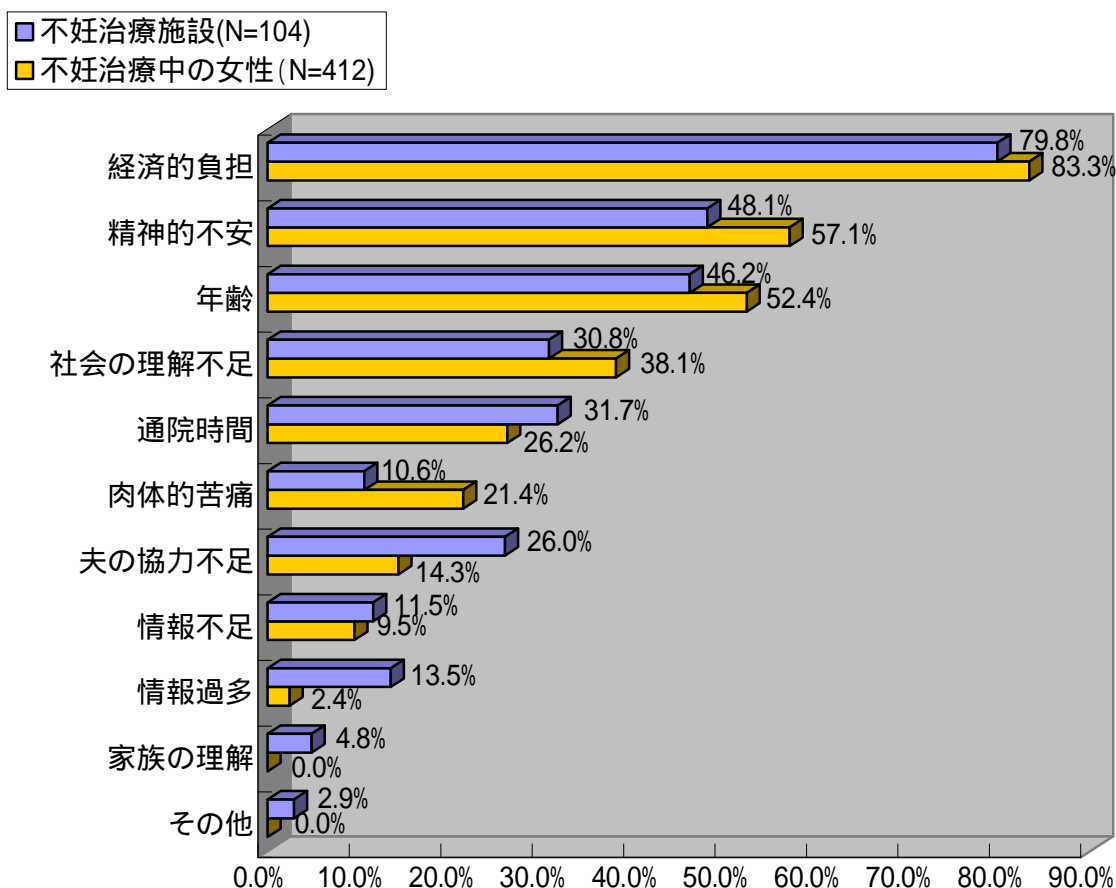
**不妊治療施設では「情報不足」よりも「情報過多」が多い結果に。的確な情報提供が重要**

不妊治療中の女性は、「情報過多(2.4%)」より「情報不足(9.5%)」と感じている人が多かったのに対し、不妊治療施設では「情報不足(11.5%)」より「情報過多(13.5%)」の方が多く結果となりました。

不妊治療施設からは「他人の治療方法を気にしすぎる」など、過度な情報が不妊治療の不安を増長させていると感じていることが分かりました。解決案として「情報提供などコーディネーターの存在」といった意見が挙がり、不妊に悩む女性にとって公平で的確な情報を得る仕組みが重要であることが分かりました。

【設問1】 不妊治療において悩みや障害となっている主な要因は何ですか(複数回答:3つまで)

(女性 N=412、不妊治療施設 N=104)



【調査目的】

少子化問題が深刻化する中、日本における社会問題のひとつとして不妊治療への関心が高まっています。倶楽部ジネコでは、不妊に悩んでいる女性に加え専門家が感じている不妊治療における阻害要因、それに対する改善策を把握するため意識調査を実施いたしました。

【調査内容】

調査対象: 全国の不妊治療中の女性(又は経験者)412名、全国の不妊治療施設 104 施設

調査方法: インターネットアンケート(不妊治療中の女性)、FAX によるアンケート調査(不妊治療施設)

調査期間: 平成 21 年 2 月 1 日 ~ 2 月 20 日

【倶楽部ジネコとは】

女性が子供を産みやすく育てやすい社会になることを目指し、不妊症や出産・育児に関する女性の声を広く社会に発信する社会活動団体です。

ホームページ <http://www.clubjineko.net>

【本件の連絡先】

株式会社バズラボ 阿部 / 長友

TEL : 03-3542-5007 FAX : 03-3542-8130

Mail : nagatomo@buzzlabo.co.jp (長友)

## 参考資料

【設問2】 問題を解決するために必要なことは何でしょうか？(自由回答)

### 不妊治療施設からの自由回答(一部抜粋)

- ・ 不妊治療を保険適用してほしい
- ・ 教育現場において、避妊についてだけでなく、妊娠に関する正しい知識を啓発していく必要がある。また産む、産まないだけでなく、産みたくても埋めない性について知り、他人事ではなく自分のもんだいとして考える機会を持つことで多様な生き方を認める社会に近づけるのではないか
- ・ 不妊治療の保険適用となること
- ・ 思春期から成人女性のライフスタイルにあわせた啓蒙活動と教育活動
- ・ 個々の患者様と必要なカウンセリングを行うこと
- ・ 国家による不妊治療への政策の拡充、保険適用の拡充
- ・ 助成金による保護が必要と考えています
- ・ 社会の理解が深まりより積極的に治療をうけられるようになると思われる
- ・ ART の保険適用
- ・ 夫婦単位でのカウンセリング
- ・ 国、地方自治体の経済的補助
- ・ かたよりのない、中立な情報提供
- ・ 効率の良い治療
- ・ 早くからの治療開始
- ・ 医師やカウンセラーが話しやすい雰囲気につくことと思います。
- ・ 結果を出す事 それ以外に根本的な解決はありません
- ・ 軽減なら話を聞いてあげる、カウンセリングを行う
- ・ 不妊カップルのストレスを他の人が理解するための啓蒙活動
- ・ 不妊や不妊治療に関して社会の啓蒙
- ・ 情報処理するための相談や正確な情報の伝達(マスコミ etc)
- ・ 助成金等の充実
- ・ 子育てが楽しいものとのイメージを社会が作り上げなければならない
- ・ 治療費の公的援助、子育ての公的援助
- ・ カウンセリングの充実
- ・ ホームページでの情報提供(不妊治療やクリニックについて)
- ・ 助成制度の告知(クリニック内での掲示やHPでの情報提供)
- ・ 国のサポート
- ・ 新しい排卵誘発剤などは高価で自己注射を認められない
- ・ 年齢にともなう妊娠率が低下することを理解してほしい
- ・ 早い時期から治療を開始する必要性
- ・ 夫婦のコミュニケーションを大事に結婚生活をおくる事
- ・ 頑張っている自分を支えてくれる友人や共通の悩みを理解しあえる仲間
- ・ 適切なアドバイスをもらえる通院している病院の体制(カウンセリング etc)
- ・ 常に患者様の側に立った医療を続けていくこと
- ・ 不妊治療への助成金制度の充実をより一層はかることや保険診療の拡大を望みたいです
- ・ 診療外に時間をかけてカウンセリングを含めスタッフと伴に不安をとり除くように患者様との対応を行っていく

- ・ 少数派に相当する不妊症カップルに対しての理解を社会全体でとりめくような活動が必要。やはり行政を中心として考え方が変わっていく必要がある。
- ・ 解決策はなかなか難しいです。地方での地道な活動。全国的にはマスコミによるキャンペーンなど。
- ・ 夫のサポート
- ・ 少子対策としてエンゼルプランの中で不妊症治療の保険化を実現してほしい
- ・ 主治医と患者との心のつながりを十分にすること
- ・ 不妊治療を開始する前には必ずご夫婦できてもらい今後の治療について十分に説明し納得してもらうようにする
- ・ 保険適用または助成金増額
- ・ ARTの保険適用、助成金制度の充実
- ・ 不妊症や治療に関する基礎的な情報提供の徹底
- ・ 学生時に性教育に加えて、不妊症、および不妊症の方の気持ちなどを学んだり考える時間をもうける
- ・ 行政の補助が必要
- ・ 不妊活動による一般の方へのアピール
- ・ 経済面の支援のあり方 助成金、保険適用の見直し
- ・ 悩みを相談できる人や場所の必要性・少子化対策の柱に
- ・ 精神的サポート。カウンセラーを見つけること自体が難しいので紹介する仕組み
- ・ 不妊治療クリニックの格付け
- ・ 国・自治体などの援助や正確な情報を社会に知ってもらうこと
- ・ 夫婦2人に正しい説明をすること
- ・ インターネットなどで得た知識がありすぎ、頭でっかちの人も多い。40 才になってから来院される人も多くジャガー横田さんのような例外的にうまくいった人を持ち上げるのではなく、少しでも早い方が確立が高いという情報をきちんと伝えるべき。
- ・ 経済的負担 すべて保険診療になることが望まれます
- ・ 通院時間 勤務時間後の夜間や休日診療を行えるクリニックが増えること、あるいは職場での早退を認めてもらうことですが、現実的には難しいと思います
- ・ 精神的不安 患者さんによって原因・状態はさまざまです。カウンセリングが必要になります
- ・ 具体案を即答できるほど簡単な要因ではないと思います
- ・ 基本に忠実に検査と自然妊娠を考えるから早目の step up と考えます。検査をしないで step up している方が多いのが残念です。
- ・ 治療の保険適用
- ・ 世間の理解を高める(年齢が上がると妊娠しづらいなど)ためにテレビなどで積極的に取り上げてもらう"
- ・ 適切な情報提供と治療のサポートをする存在
- ・ 医院独自のサポート体制の強化
- ・ 治療内容に関してあまり人と比べないように
- ・ 保険適用、働いている人は勤務交代ができるほど会社の協力があればと思います
- ・ 若年からの学校教育
- ・ 産婦人科の協力(教育的指導)"
- ・ 蜜に患者さんと話をすることが一番大事と思います
- ・ 保険の適用、新しい治療 の開発、カウンセラーの配置
- ・ 情報提供などのコーディネート存在
- ・ 夫婦面談の重要視
- ・ 助成金を拡大する

【設問2】 問題を解決するために必要なことは何でしょうか？(自由回答)

### 不妊治療中の女性(又は経験者)からの自由回答(一部抜粋)

- ・ 不妊治療を保険適用にすることで、経済的負担は解消されると思います。保険適用が難しいのであれば、せめて、現行の助成金制度をもっと手厚くするべきだと思います。採卵-移植周期と胚移植周期を分けて、それぞれ助成の額を上げて、年度内2回までではなく、例えば5回までにし、通算5か年度までではなく、上限をもうけないとか。
- ・ とにかく、今の状態では、経済的にきついですし、お金を捻出できないのであれば、子供はあきらめなど国から突き放されている感じがします。少子化と言って久しいわりには、不妊治療の現実がどれほど高額かという実状にふれないようにし、不妊患者は「自然に子供ができないなら治療費は自分達でなんとかしなよ」と冷たい扱いをされている状態にあると思います。
- ・ 治療を続ける夫婦を、温かく見守る社会の目と、正しい情報。
- ・ 高度生殖医療となると経済的負担は免れません。
- ・ もっと不妊治療に対して国が理解してほしい。すべての治療実績公開などしてランクをつけたり。治療をはじめるときによくわからないからと近くの病院にいて成果があがらず時間を無駄にすることがあると思うので。
- ・ 助成金額をもっと増やす。不妊治療の金額を保険適用とする。1個以上の受精卵を胚移植できる。
- ・ 日本の少子化は大問題にも関わらず、放っておかれているのが現実です。晩婚化が進み、妊娠希望者の年齢がどんどん上がっていく中で、「赤ちゃんは欲しいけど困難」と言う人を沢山目の当たりにします。助成金の増額や、保険適用範囲の拡大を節に願います。
- ・ 何よりも夫の支え・協力が必要だと思います。情報があまりにも無さ過ぎ、子供が出来ないのは妻のせい、という考えをもつ人がまだまだ多いのではないかと思います。(夫でさえも)
- ・ 「結婚したら子供ができて当たり前」と考える人が不妊の事を知り、考えを改めてくれたらどんなに精神的に楽になるだろう...
- ・ まずは夫婦が子供という目標に向かわなければうまくはいかないと思います。どうしても妻の方が精神的にも肉体的にも辛いけれど、夫がそれを支えてくれたらずいぶん楽になると思います。
- ・ 不妊治療の保険適用。
- ・ 上手なストレス発散
- ・ 国からの補助があれば。経済的な面でもそうですが、世間の目も少しは変わってくるように思います。
- ・ 3つ選びましたが、たぶん全て当てはまるものだと思います。そして、すべて乗り越えなければならないことではないでしょうか？
- ・ 私の場合は生殖心理カウンセラーという方に夫婦でカウンセリングを受けました。医者ではないとのことで、治療に関してのアドバイスはなしです。周りからの何気ない一言や、夫婦間での温度差など身近なこと、でも一番根本的な部分の相談でした。そして、男性に女性の心理を説明して下さったり、その逆も説明していただきました。こういった方が、もっと不妊治療の現場、しいては企業にとっても必要なのではないのでしょうか？
- ・ 少しでも近くの、自分に合った病院を探し出せば、時間もお金も負担が少なくなると思います。
- ・ 保険の適用。治療できる病院が増えること(待ち時間の短縮)。自己注射の普及や、内服薬の充実。ジェネリックの普及(ジェネリック薬があっても取り扱いがなく、取り寄せになる)。
- ・ まだ世間が不妊治療に対して偏見を持って人が多い。
- ・ 社会全体の、不妊治療への理解
- ・ 注射の痛みなどは耐えられますが、友人など周りの理解が乏しいこと、配慮がないことがいろいろ傷つく原因になっていると思います。もっと不妊治療に対する知識が浸透されればいいのになあ。
- ・ メディアでの不妊治療の特集など
- ・ 社会、会社の理解。毎日注射を打ってからの出勤なので会社へはかなり肩身の狭い思いをしている。

- ・ 年齢の問題も自分が不妊治療するまではあまり気にしませんでした。中～高校あたりでしっかり不妊の問題も勉強すべきだと思いました。不妊治療を始めて初めて知る事が多すぎます。女性は全員知るべきです。大学を卒業して社会人になってがむしゃらに働き、10年はアツという間です。
- ・ 少子化の問題として社会も力を入れるならば全ての不妊治療に保険を適用すべきです。毎日の注射が8500円かかります。毎日1万円札が無くなります。不妊で悩んでいる人ってかなりいると思います。
- ・ ネット以外の私の知り合いだけでも、治療に通ったことのある人を2人、病院に行っていないけれどできずに悩んでいる人を1人知っています。なかなか言えないことだというのに、これだけ知っているということは、言えずに悩んでいる人というのはいくらいると思います。
- ・ 治療においてまず始めに障害になるのは、不妊治療に通うことが後ろめたい、恥ずかしいことのように思うことではないでしょうか。
- ・ たくさんの人が悩んでいるというのに子供は出来て当たり前のように思われているし、さまざまな要因があってそれは女性だけでなく男性にも要因があるかもしれないのに、世間ではそういう知識が出回ってなくて数々の誤解を生んでいるように思います。
- ・ 少子化のこの世の中なので、もっと不妊症に関する知識を世に広めて、男性女性問わず(特に男性が)検査に行くことが一般的なことようになってほしい(例えば、結婚したらまず二人で検査に行くことが定番になるような)と思います。
- ・ 結局問題解決に必要なだったのは治療費がもっと安くなる事かな。
- ・ 夫に限らず男性に対しての不妊に関する理解が薄いような気がします。知らないことが多いから積極的にもならない、というよりなれない。という思いでいるような気がします。
- ・ 情報を必要とする人しか見ることのない場所(不妊に関するサイトや病院とか)でしか、原因、対策などの情報が入ってこないの、例えば日常的に目にする週刊誌や新聞、検索サイトなどで積極的な情報発信してもらえると、男女間でもっと協力しあえたり出来るのではないのでしょうか。
- ・ 個人の意識が問題だが、私の場合はもっと早く始めるべきだったと後悔している。
- ・ 長く続ければ続ける程、実際体はボロボロになる。治療中の医師・看護師からの詳しい説明やメンタルサポートなどがあれば、心の苦痛は癒されるのでは。
- ・ 高度生殖医療の保険適用。せめて薬や注射だけでも早急に適用にしてほしい。
- ・ 通院のやりくりが難しく、退職を選択せざるをえなかった者としては、職場の理解を得られたらと思うこともあるが、これについては諦めている。
- ・ 重度男性不妊なのですが、対応できる病院があまりなく、地方在住の人は皆、東京や九州へ通うしかない状況です。不妊=女性、という社会の認識が変わらない限り、男性不妊に対応できる病院は増えないと思います。
- ・ 男性不妊の実態、多さをもっと世の中に知ってもらいたいです。
- ・ もっと皆が声を出す。発言する事。
- ・ 政府自体が少子化に対する危機感が無い。
- ・ 妊娠して出産する予定の人ばかりに目を向けている。今から子供が欲しい!と言う人を見ていない。不妊治療から、全ての医療費用を免除しなければ、出産率は上がらないだろう。
- ・ 行政等で治療費の補助などの制度を充実させて欲しい。
- ・ 病院や医師不足。
- ・ 知識や経験のある医師が少ないためか治療実績のある病院では、とても待たされる。
- ・ 私自身は実子がすでにおりますが、二人目を心からのぞんでいます。ただ年齢的に妊娠が難しく、卵子提供を受けたいと願っています。しかし日本では認められていないので、海外に高額な費用をかけていくしかないのが現状です。